

状況別対応フローチャート 1

《地震が発生した場合》

1. 生徒に安心できるような言葉掛け、姿勢を低くして落下物から身を守るように具体的に指示する。
(机の下にもぐらせる。机がない場合は部屋の中央で頭をカバンや手で覆う)
2. 全館放送により、地震の発生を知らせる。
3. 職員はできるだけ速やかに戸やサッシ等を開けて避難口を確保する。
4. 揺れが収まったら、生徒を屋外に避難させるとともに、負傷者がいないか、声を掛けながら確認する。
5. 教職員及び生徒の状況（怪我人等）を管理者が集約して校長に報告する。
6. 施設内には安全が確認できるまで立ち入らないようにする。
7. 課外活動で地震が起きた場合

基本手順は同じ

【追加】

- ①できるだけ塀や建造物から遠ざけ、しゃがんで揺れの収まるのを待つ。
 - ②ブロック塀・自動販売機・屋根瓦・ガラス・看板その他の落下及び転倒物に注意する。
 - ③携帯電話で管理者に連絡を入れ、情報を収集するとともに指示を仰ぐ。
連絡がつかない場合は、現場責任者の判断で行動する。
 - ④ 《事前調査》
地震が発生した場合の安全な場所の確認をしておく。
 - ⑤ 《活動中》
施設の管理者の指示に従い、安全な場所に避難する。
 - ⑥ 《施設滞在中》
施設の管理者の指示に従い、安全な場所に避難する。
8. この先はマニュアルに沿って対応

状況別対応フローチャート 2

《火災が発生した場合》

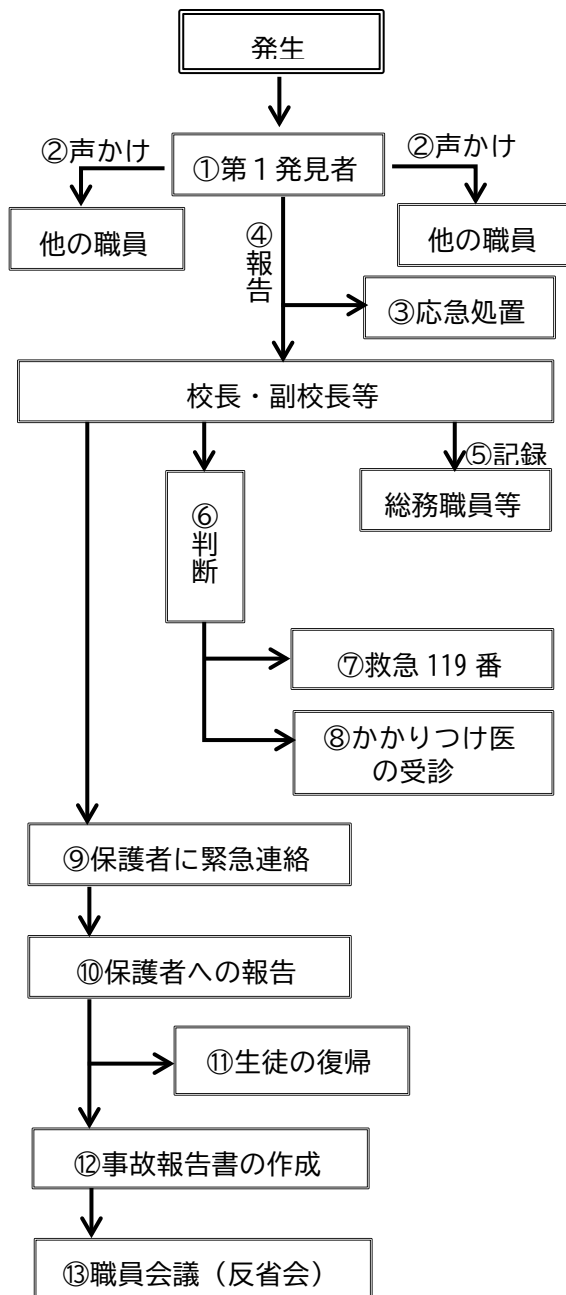
1. **火災発生**

周囲への周知⇒報告⇒連絡（放送）・通報⇒避難誘導・初期消火

- (1) 火災を発見した第一発見者は、大きな声で周りの職員に知らせる。
 - (2) 知らせを受けた職員は、速やかに校長及び他の職員に火災の発生を知らせ、消防署へ通報する。
 - (3) 第一発見者及び知らせを聞いた職員は、可能な限り初期消火に努める。
 - (4) 生徒を避難誘導し、生徒の人数把握及び校長への報告をする。
2. この先はマニュアルに沿って対応

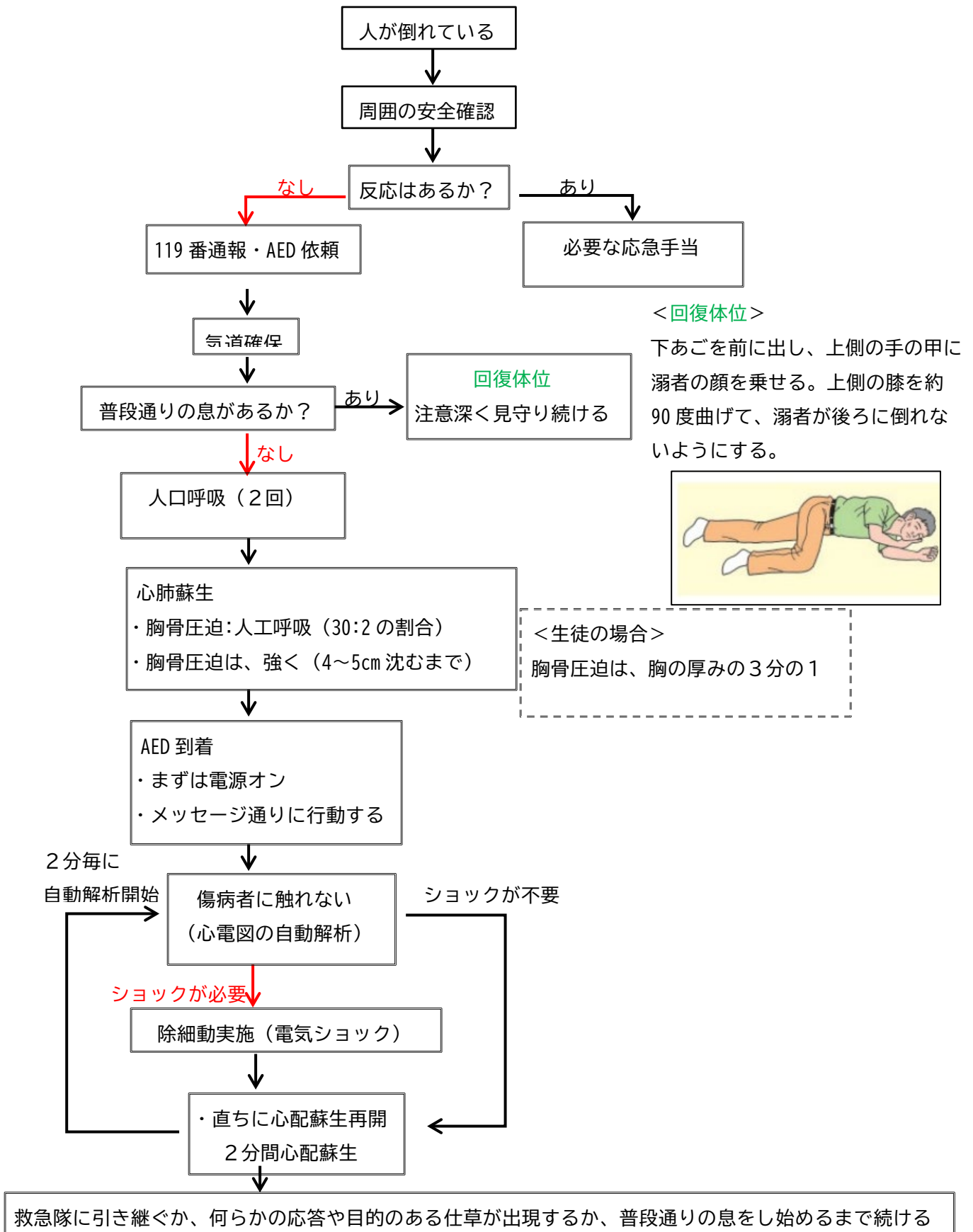
状況別対応フローチャート 3

《校内で事象・事故が発生した場合》



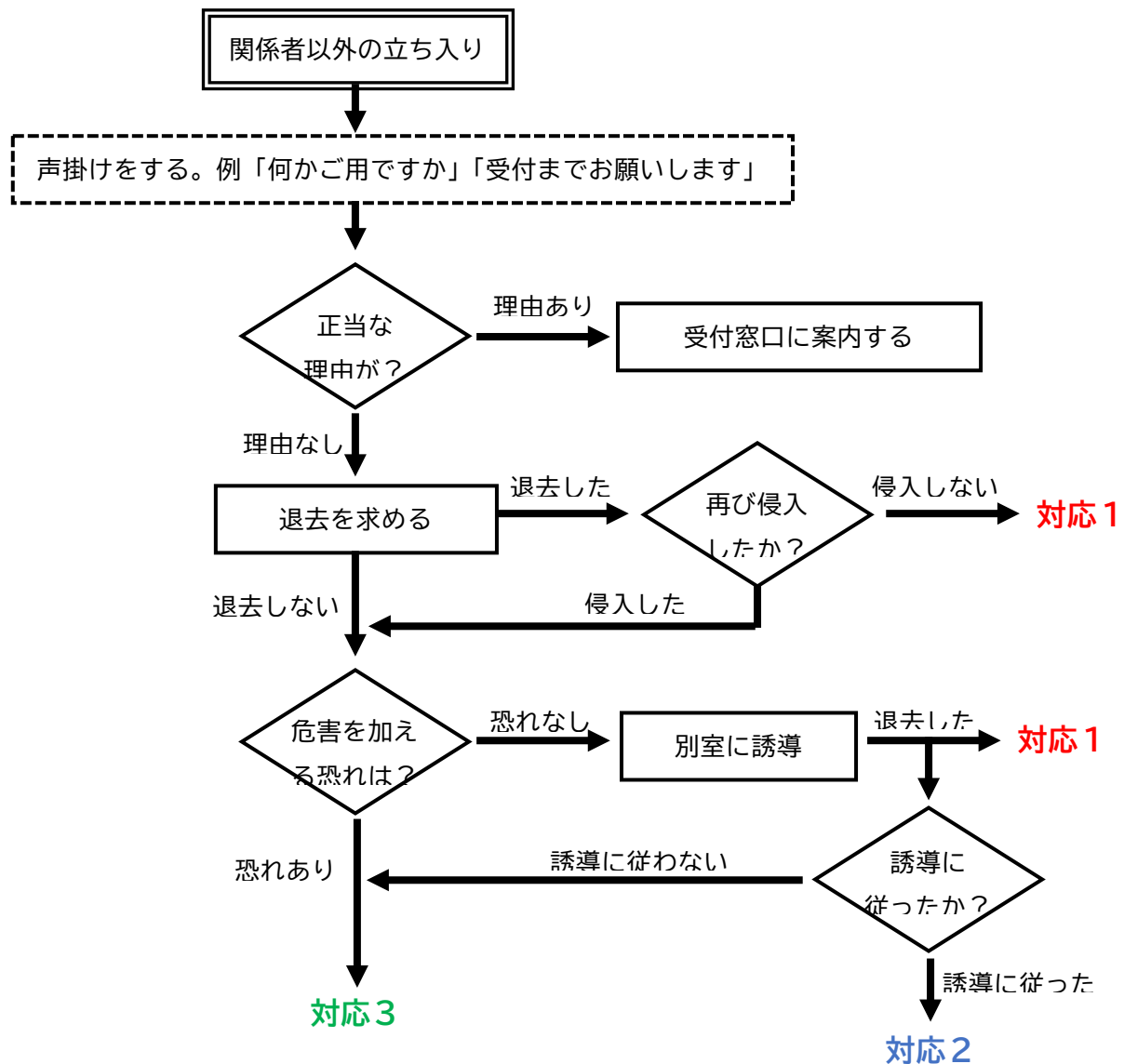
- ① 発生時の状況及び怪我の程度を把握する。
- ② 周囲の職員に声をかけ、協力を求める。
- ③ けがの状況を把握し、適切な応急処置を施す。
- ④ 速やかに校長・副校長等へ事故状況を報告する。
- ⑤ 総務職員又は担任は、状況を把握し記録する。
- ⑥ 校長を交え、職員室にいる職員と急をようするかどうかの判断をする。
- ⑦ 重篤な症状の場合は、直ちに救急車を要請する。
- ⑧ 緊急を要さない場合は、保護者と相談する。
- ⑨ 保護者に、発生状況と怪我の程度を伝える。
- ⑩ 保護者に、事故の発生状況・医療機関の診察・結果・今後の受診の有無を正確に説明し理解を求める。
- ⑪ 生徒の復帰後は、担任だけでなく、他の教職員も生徒を観察し、変化があれば校長・副校長に報告する。
- ⑫ 「報告書」を作成する。
- ⑬ 発生の状況分析を行い、今後の事故防止対策などについて全職員で確認する。

状況別対応フローチャート 4
 ≪AED を用いた心肺蘇生の流れ≫



状況別対応フローチャート 5

《不審者が侵入した場合》



<対応1>

- ・再び侵入しないか、不審者が見えなくなるまで観察する。
- ・不審者が周辺をふらついていないか巡視する。
- ・校長に報告する。

<対応2>

- ・校長を含め、複数の職員で対応する。
- ・警察に連絡し、対応を求める。

<対応3>

- ・直ちに警察に通報する。
- ・警察が到着するまでは、不審者を落ち着かせるよう丁寧に対応する。
その際、万が一に備え、不審者との距離を保つようにする。
- ・職員全員に、不審者情報を伝達するとともに、生徒を屋内の安全な場所に避難させる。
- ・生徒に危害を加える恐れがある場合は、身近な道具を活用し、不審者を捕獲又は対峙する。